

沖縄の子どもの貧困、私たちの課題②

親の子育て、 就業と貧困問題

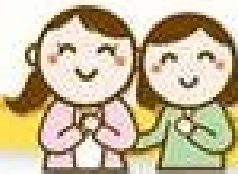
—社会的保護の展望—



沖縄の子どもの貧困率は、沖縄県が8自治体を抽出した調査で29.9%（2015年）、より現実的に再整理した戸室（山形大学）調査では37.5%（2012年就業構造基本調査）に上る。さらに、18歳未満の子どもを育てている層内世界の3世帯に1世帯以上が貧困に陥っており、全国平均の約2.7倍と突出している。経済的貧困は、とくに子育て世代の保護者と子どもが接する時間を短くし、成長段階において経るべき経験を乏しくすることが指摘されている。経験な自己責任論を越え、働く者、経営者、そして、すべての市民が共有すべき社会問題だと再認識し、皆さんとともに改善に向けた課題を展望します。

聴講料
無料

資料費の不足



2017年 9月9日 土

時間・14:00～17:00

開場時間・13:30

場所・沖縄大学アネックス共創館

※裏面に地図があります。

プログラム

14:00 開会・ご挨拶

14:15 「全国貧困率の結果と沖縄の位置づけ」
戸室健作 氏（山形大学人文社会科学部准教授）

14:45 「ひとり親世帯における
養育と雇用・就労問題」
秋吉晴子 氏（しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄代表）

15:15 「子どもの貧困は親と地域の貧困から
—中小企業における「人を生かす経営」の取組み事例」

宮城光秀 氏（有）大宮工機 専務取締役
沖縄県中小企業家同友会 副代表理事
私立那覇高等学校 PTA会長

15:45 休憩

15:55 「沖縄の子どもの貧困、私たちの課題①
親の子育て、就業と貧困問題
—社会的保護の展望—」

戸室健作 氏 × 秋吉晴子 氏 × 宮城光秀 氏
コーディネーター
島袋隆志（沖縄大学准教授・地域研究創成部長）

16:30 フロア討論

17:00 終了



戸室健作 —（山形大学人文社会科学部准教授）

Kenjiro ICHIYA

1979年生まれ。明治大学大学院経営学専攻科博士後期課程修了。著書に『ドキュメント読書愛読100冊』（新読書館、2011年）、最近の論文に「都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、扶養率の検討」『山形大学人文科学研究年報』13号（2016年）がある。



秋吉晴子 —（しんぐるまざあず・ふぉーらむ）

Haruko AKIYAMA

1984年大阪府堺市生まれ。1999年から就職。2004年にシングルマザーの当事者団体「しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄」設立。子供のひとり親に精神医療が活用されない問題や児童扶養手当の未だの支給問題など制度を改善する活動に取り組んでいる。満3歳の娘と二人暮らし。



宮城光秀 —（有）大宮工機 専務取締役

Mitsuhiko MIYAGI

1988年生まれ。琉球大学大学院工学研究科電気・情報工学課程修了。富士通（株）を経て1997年（有）大宮工機入社。現在に至る。小・中・高等学校PTA会長として積極的に活動し、2015年沖縄県PTA連合会会長就任。教育現場での課題に取り組むと共に、中小企業家同友会副代表理事として雇用問題にも取り組む。2016年沖縄県産業・雇用研究大会特別講演賞受賞者表彰受賞。

コーディネーター



島袋隆志 —（沖縄大学准教授・地域研究創成部長）

Takashi SHIMABARA

1965年生まれ。明治大学大学院経営学専攻科博士後期課程単位取得。専門は経営学（雇用関係研究）、企業、労務など活動する場での「働き方、働き方」について調査研究している。鹿児島県社会計画推進協議会委員、那覇市男女共同参画会議委員。